

ふれあい グループ

5/28

また来るね



認定こども園妹背牛保育所の園児たちが、グループホームべにばらを訪れ、交流会を行いました。10名の子どもたちが登場すると、入居者の皆さんは拍手で歓迎。歌や踊りなどの発表が行われると、皆さんからは「かわいいねえ」という声が聞こえました。発表が終わると一人ひとりと握手。子どもたちから「また来るね」と声をかけられえると、感極まっている方もおられました。最後には発表のお礼にお菓子が贈られました。

6/5

立派に育ってね

認定こども園妹背牛保育所で園児たちが、地域の活性化を目指した活動をしている「ファーマーズクラブ雪月花」の皆さんに教えてもらいながら野菜の苗や種を植えました。植えた野菜はニンジンやトマト、長ねぎ。天気が心配されましたが、子どもたちの行いの良さが幸いしてか、作業は雨が降ることなく進められました。子どもたちは畑作業というよりも土に触れる事に夢中の様子。手を泥だらけにしながら、夏に大きく実った野菜の収穫を楽しみにしています。



5/17

ペペルに総料理長が就任

新しく妹背牛温泉ペペルの総料理長を任された小向荣基さん(57)。富良野で生まれ育ち、高校を卒業後は横浜銀行の保養施設で3年間の修業をし、調理見習いとして和食の基礎を学びました。その後、北海道のニュー富良野ホテル、サホロリゾートに25年勤務しました。

今回の総料理長就任にあたり、『店の現状を分析し、訪れるお客様のニーズをとらえて料理のコンセプトづくりをするなど、改善を進めていきたい』と意気込んでいます。サホロリゾートで身に着けた技術を活かしたメニューなど今後の展望も考えており、これからの米里が楽しみです。



5/18 水田の中、初めての感覚



コープさっぽろお米たんけん隊の田植えツアーが妹背牛町ふれあい農園で行われました。参加した札幌市内の39名の親子連れは、到着するとまずラジオ体操からスタート。体がほぐれると佐藤技師から田植えの工程や足がはまってしまったときの対処法などについて説明を受けました。裸足で田んぼに入ってみると、子どもたちからは「気持ちいい」などと声上がり、少々不ぞろいな並びながらもしっかりと植えられました。

6/14 中学校廃品回収



町内を妹背牛中学校の生徒が巡回し、廃品回収が行われました。生徒たちはPTA役員や教職員と協力し、担当地区に分かれて軽トラックや自転車でご新聞、古雑誌などを回収。校舎前で、集めた廃品のトラックへの積み込みに汗を流しました。生徒たち自らも行った事前の周知活動のおかげで回収もスムーズ。天気が良く、日差しが照り付けるなか、元気に作業を行ないました。

6/10 通せんぼの木



町道東2丁目線を駅前倉庫に向かっていくと、1区3町内の荒井一隆さん宅の庭に左右にまっすぐ枝が伸びたオンコの木が目に入ります。父親の庄蔵さんが40年ほど前に植え、枝の剪定をしているうちに、まっすぐ横に枝が伸びる形になったもの。現在は一隆さんが引き継ぎ大切に育てていますが、長い枝は5㍎近くにもなり、「人が通せんぼしているみたいに見える珍しい木だね」と、立ち止まって眺めて行く人もいます。

6/2 朝から元気に



妹背牛駅前のロータリー付近では毎朝ラジオ体操の音声が流れています。これは「駅前町内会ルネッサンス」が4年前から行っているラジオ体操で、山崎雄大さんが中心となっています。この日も約20名の老若男女さまざまな世代の町民が集まり元気にラジオ体操。みなさんの近況報告会や異世代交流の場にもなっています。